

保育者養成における 身体を使った表現（身体表現）指導の実態

Research on the actual state on the expression instruction using the body in Nursery Teacher Training

高原 和子・瀧 信子*・矢野 咲子*・怡土 ゆき絵*
青木 理子**・小川 鮎子***・小松 恵理子****
Kazuko Takahara・Nobuko Taki・Sakiko Yano・Yukie Ito
Riko Aoki・Ayuko Ogawa・Eriko Komatsu

キーワード：身体表現指導，保育者養成

はじめに

1998年と2006年に九州内の幼稚園・保育所の保育者を対象に身体表現活動の実態についての調査を実施した^{1, 2, 3)}。1998年の調査では、表現活動としては音楽表現が主流で、からだを使った表現活動としては「手遊び」や「歌や曲にあわせた踊り」が多く、幼児のイメージを大切にしながらの動きをベースにした表現活動（身体表現活動）は十分に行われていなかった（図1）。

かつて身体表現は、保育の領域では「遊戯」と称され、歌や音楽に合わせて振りをつける内容が主の音楽

リズム的な位置づけであった。それが1989年の改訂により身体表現遊びとして「保育内容（表現）」の中に盛り込まれ、以後、身体表現（遊び）は、子どもが感じたり、考えたりしたことを思いのまま自由にのびのびとからだの動きで表す内容となった。1998年の調査は、改訂から9年を経ての調査であったが、依然、旧教育要領の「音楽リズム」の流れが存在していた。それは2006年の調査においても同様で、幼児自身のイメージで動く「自由な表現」や「模倣遊び」は1998年より少なく、イメージを大切にしながら身体表現活動が保育現場で実践されていない様子がうかがえた（図1）。

その原因としては、身体表現に対する保育者自身の経験不足や身体表現が苦手とした保育者自身の問題（図2）が考えられた。また、保育者の学生時代の学習内容をみると、保育現場で行っている表現活動の内容と同様の傾向がみられたことから、保育者の学生時代の学習内容に端を発していることも示唆された（図3）。このように学生時代の学習経験が保育現場に反映されることから、養成校においては、想像性（または創造性）や豊かな感性を育てる自由な身体表現活動を授業内容に取り入れ、指導することの重要性が示唆された。

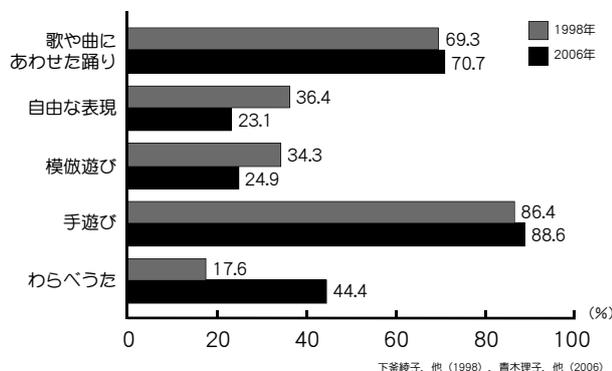


図1 保育の中でよく行っている表現活動

*福岡こども短期大学
**尚絅大学短期大学部
***佐賀女子短期大学
****鹿児島女子短期大学

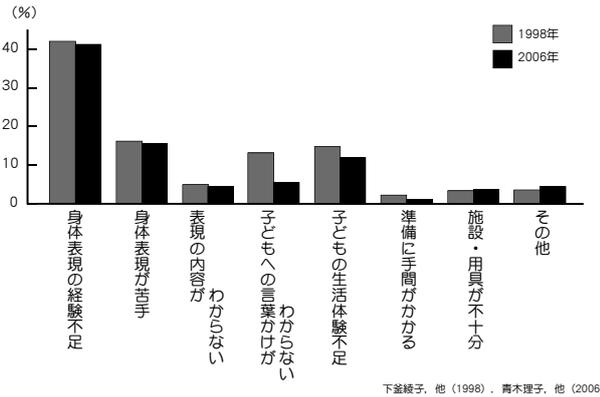


図2 身体表現の指導について感じていること

それから5年後の2011年、保育士養成課程のカリキュラムが改訂された。そこでは、子どもの表現を広く捉え、子ども自らの経験や周囲の環境との関わりを様々な表現活動や遊びをとおして展開していくことを重要視することから、「基礎技能」は「保育表現技術」と名称変更され（「保育士養成課程等検討会中間まとめ」2010年3月）、「身体表現」という言葉とともに、表現技術を保育との関連で修得できるようにすることが述べられている。しかしながら、保育者養成における「身体表現」の授業実践に指針は示されてなかったため、現状では、養成校の担当教員の専門性による独自の様々な授業が行われることとなった。

筆者らは、かねてより幼児の身体表現活動（身体表現遊び）の重要性を提唱し、保育者養成校における身体表現系授業の充実を検討してきた^{4~20)}。しかし、保育現場への身体表現活動の普及は未だに十分ではない。そこには保育者養成校の授業実態が深く関わっていることが考えられる。

そこで、本稿では、保育者養成校における身体表現としての指導すなわち身体を使った表現指導がどのように行われているのか、授業シラバスからその内容を調査し、身体表現活動を現場保育に普及していく手がかりを得るための資料とすることを試みた。

方 法

(1) 研究対象

調査対象は、九州・沖縄にある保育士養成施設の大学および短期大学のうち、インターネット上にシラバスが公開されていた44校（大学19校・短期大学25校）

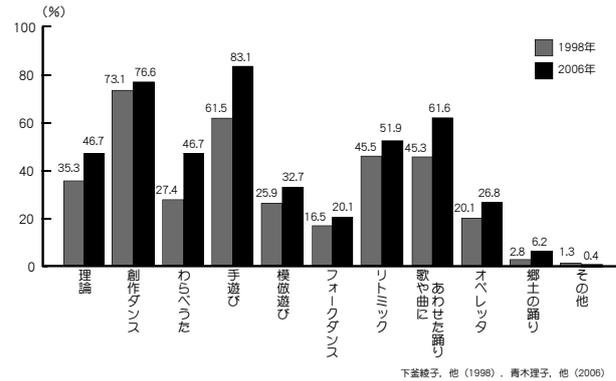


図3 保育者の学生時代動きによる表現に関する学習内容

である。

(2) 調査方法

インターネット上に情報公開されている各大学・短大の2015年度シラバスから関連するキーワードで授業科目のシラバスを抜き出した。キーワードは、体育・音楽・保育内容・実習事前事後指導・身体表現・演劇関係・言葉等である。さらに、抜き出したシラバスの授業内容より、「身体を使った表現」に関連する内容が書かれているものを抽出し、その科目名称から体育系・音楽系・保育内容系・児童文化系・保育技術系・その他に分類した。

抽出および分類は、保育者養成校で教鞭をとる7名の研究者による協議の基で行った。

結 果

キーワードで抜き出した授業科目のシラバスから「身体を使った表現」に関連する内容が書かれていた科目の総数は192科目であった。これらの科目を科目名称および内容から、体育系・音楽系・保育内容系・児童文化系・保育技術系・その他の6つに分類した結果を表1に示す。「身体を使った表現」の内容を多く含んでいたのは体育系科目（69科目）で、次いで音楽系科目（58科目）、保育内容系科目（46科目）であった。また、体育系科目には、科目名または授業内容に「身体表現」と記載のあった科目が17科目含まれていた。

系統別の主な科目名称と授業内容を表2に示す。「身体を使った表現」を含む内容は、体育系科目に次いで音楽系科目に多く含まれていた。授業内容としては、手遊び・指遊びやわらべ歌遊び、リズム遊びが多

表1 「身体を使った表現」に関する科目数

体育系		音楽系	保育内容系	児童文化系	保育技術系	その他
52	17	58	46	3	13	3

(身体表現系)

表2 主な科目名称とシラバスからみられた授業内容

主な科目名称	体育系		音楽系	保育内容系	児童文化系	保育技術系
		幼児体育 体育 幼児と運動 体育あそび研究 からだを動かすあそび、他	身体表現系 身体表現技術 リズム、ダンス表現 子どもと身体表現 動きのリズム、他	幼児音楽 音楽演習 音楽表現研究 音楽表現技術 子どもの音楽遊び、他	保育内容 表現指導法 保育内容・健康 保育内容・言葉 保育内容研究、他	児童文化 子ども文化 子どものあそび文化
授業内容	リズム遊び 身体を使った表現・表現遊び 鬼ごっこ遊び 伝承遊び ダンス 模倣遊び 素材を使った表現遊び 手具運動遊び ジャンケン遊び からだ遊び・運動遊び パラバルーン 組み体操・マスゲーム 体づくり・体ほぐし運動 わらべうた リトミック サーキット遊び 親子遊び・親子ダンス 集団遊び ふれあい遊び 遊技	リズム遊び わらべうた ダンス うた遊び 季節・生活の中からの表現遊び イメージから動き 絵本から身体表現へ バントマイム 親子遊び・親子ダンス 模倣遊び 素材を使った表現遊び 空想・物語から身体表現へ 手遊び・指遊び ヒップホップ ジャンケン遊び 鬼ごっこ遊び 身体を使った表現・表現遊び ミュージカル・オペレッタ	手遊び・指遊び リズム遊び わらべうた リトミック ポディーパーカッション うた遊び からだ遊び・運動遊び 模倣遊び 身体を使った表現・表現遊び ダンス 鬼ごっこ遊び 発表会・運動会 ミュージカル・オペレッタ	身体を使った表現・表現遊び 手遊び・指遊び リズム遊び わらべうた からだ遊び・運動遊び 季節・生活の中からの表現遊び 模倣遊び 伝承遊び リトミック 創作 ミュージカル・オペレッタ 発表会・運動会 ふれあい遊び ポディーパーカッション ダンス ジャンケン遊び 体操遊び イメージから動き 素材を使った表現遊び	身体を使った表現・表現遊び わらべうた 伝承遊び 劇・劇遊び 手遊び・指遊び ダンス イメージから動き	身体を使った表現・表現遊び 伝承遊び ジャンケン遊び 手遊び・指遊び わらべうた からだ遊び・運動遊び ふれあい遊び
						その他 レクリエーション・ダンス 科 主 名 称 授 業 内 容 レクリエーション実技

く行われていた。また、音楽系の科目内容の特徴として、リトミックやボディパーカッションも多く行われていることもわかった。

保育内容系科目にも多くの「身体を使った表現」が含まれていた。教科目の名称としては、「保育内容(表現)」「表現指導法」「保育内容(健康)」「保育内容(言葉)」など、保育内容系科目全般にみられた。

さらに、児童文化系、保育技術系科目にも「身体を使った表現」を扱った内容がみられた。特に、これらの科目に「身体を使った表現」内容を取り入れている養成校では、体育系あるいは保育内容系で「身体を使った表現」内容が少ない傾向がみられた。

考 察

(1) 体育系科目の中の「身体を使った表現」

体育系、音楽系、保育内容系科目に「身体を使った表現」内容を多く含んでいることが分かった。このことから2011年度の保育士養成課程のカリキュラム改正・実施を受けて基礎技能として体育系科目の中に「身体を使った表現」を多く加えていることが分かった。また、この中には、教科目名として「身体表現」を使っている科目が17科目含まれており、養成校における「身体表現」科目が重要視されつつあることがうかがえた。

(2) 音楽系科目の中の「身体を使った表現」

一方、「身体を使った表現」内容が音楽系科目にも多く含まれていることもわかった。特にわらべ歌遊びやリズム遊びが多く行われており、歌や楽器の演奏に加えて身体を使った表現を授業で多く取り入れていることがうかがえた。

また、音楽系の科目内容の特徴として、リトミックやボディパーカッションも多く行われていた。これは、旧教育要領の「音楽リズム」の流れからきたものと考えられる。本山ら²¹⁾は、保育内容「表現」が誕生してからの「身体表現」に関する研究の動向を考察した研究の中で、「『音楽リズム』の時代には、『身体表現』は『動きの表現』としてとらえられる傾向が強かった」ことを推測し、「領域『表現』が誕生して以降、『音楽リズム』の時代には『動きのリズム』として区別されていた内容や、意図しない『あられる』

という表現の側面までも『身体表現』としてとらえるようになった変容が読み取れる」としている。つまり保育の世界で「身体表現」という語句を使う場合、①「動きの表現」に重点を置いたとらえ方、②音楽的な活動に付随したものとしての「動きのリズム」としてのとらえ方、③「あられるもの」としてのとらえ方の3つがある可能性があり、すべてが「身体表現」ではあるが、保育内容の「表現」としては、内容が「動きのリズム」に偏ったり、「あられるもの」としての見守りや読み取るだけでは不十分であると考察している。この考察がなされてから15年、保育内容「表現」が生まれてかなりの年数がたった昨今、保育者養成校としては、身体表現本来の特性を生かした教育が根付いても良いのではないかと筆者らは考える。

(3) 保育内容系科目の中の「身体を使った表現」

保育内容系科目にも多くの「身体を使った表現」が含まれていることが本研究により明らかとなった。教科目として「身体表現」をあげないまでも、授業内容に「身体を使った表現」を加えることで、カリキュラム改正・実施に対応していることがうかがえた。

(4) 様々な科目の中の「身体を使った表現」

児童文化系、保育技術系にもその傾向は認められ、多くの保育者養成校で「身体を使った表現」が実施されていることが認められた。特に、これらの科目に「身体を使った表現」内容を入れている養成校では、体育系あるいは保育内容系で「身体を使った表現」内容が少ない傾向がみられた。そのため、前出同様、カリキュラム改正・実施に対応していることがうかがえた。

まとめ

今回調査した結果からは、各養成校において「身体を使った表現」を取り入れた教科目が多く配置され、指導されている傾向がうかがえた。しかし、その内容をみると手遊び、わらべ歌、伝承遊び等が大半を占めており、筆者らが「身体を使った表現」として目指している「イメージで動く自由な身体表現」を内容に含んでいる養成校はまだ少ない。今後、多くの保育者養成校の授業内容に登用されていくことを期待したい。

参考・引用文献

- 1) 下釜綾子, 青山優子, 井上勝子, 瀧信子: 保育園・幼稚園における動きによる表現の現状と課題. 九州体育・スポーツ学会第47回大会号. 73, 1998.
- 2) 青木理子, 青山優子, 井上勝子, 黒岩英子, 小松恵理子, 重松三和子, 下釜綾子: 保育現場における動きによる表現の現状と課題—平成10年度調査との比較—. 九州体育・スポーツ学会第55回大会号. 49, 2006.
- 3) 高原和子, 瀧信子, 宮嶋郁恵: 保育者の保育内容「表現」の関わりとその方法—表現活動を引き出す手だてについて—. 福岡女学院大学紀要人間関係学部, 8, 57-62, 2007.
- 4) 瀧信子, 青山優子, 下釜綾子: 幼児の身体表現活動を引き出すための有効なプログラム(指導案)の検討について. 日本保育学会第57回大会発表論文集, 690-691, 2004.
- 5) 下釜綾子, 青山優子, 宮嶋郁恵, 青木理子, 井上勝子, 小川鮎子, 小松恵理子, 重松三和子, 瀧信子: 幼児の豊かな身体表現を引き出す手だて. 九州体育・スポーツ学会第54回大会号. 47, 2005.
- 6) 瀧信子, 青山優子, 下釜綾子: 幼児の身体表現を支える指導技術・技能について. 日本保育学会第58回大会発表論文集, 816-817, 2005.
- 7) 瀧信子, 青山優子, 下釜綾子: 幼児の豊かな身体表現を引き出す手だて. 第一保育短期大学研究紀要, 17, 31-43, 2006.
- 8) 瀧信子, 矢野咲子, 瀧豊樹: 学生の指導力をたかめるための模擬保育の有効性と課題—身体表現活動の展開を通して—. 第一保育短期大学研究紀要, 18, 1-18, 2007.
- 9) 矢野咲子, 瀧信子, 小川鮎子, 下釜綾子, 高原和子: 保育者養成校における身体表現の段階的指導法—冬を題材にした活動—. 九州体育・スポーツ学研究. 23(1), 95, 2008.
- 10) 矢野咲子, 瀧信子, 高原和子, 瀧豊樹: 身体表現活動における学生の指導力を高めるための指導方法. 福岡こども短期大学研究紀要, 20, 9-16, 2009.
- 11) 高原和子, 下釜綾子, 瀧信子, 矢野咲子: 保育者養成校における身体表現の効果的な指導法. 日本保育学会第62回大会発表論文集, 148, 2009.
- 12) 瀧信子, 矢野咲子, 瀧豊樹: 身体表現の授業における模擬保育の有効性と課題. 福岡こども短期大学研究紀要, 21, 33-43, 2010.
- 13) 矢野咲子, 瀧信子: 学生の実践力を高める身体表現指導法の取り組み. 福岡こども短期大学研究紀要, 23, 1-9, 2012.
- 14) 瀧信子, 矢野咲子, 瀧豊樹: 保育者養成における「身体表現指導法」の取り組み. 福岡こども短期大学研究紀要, 24, 1-7, 2013.
- 15) 矢野咲子, 小川鮎子, 下釜綾子, 高原和子, 瀧信子: 身体表現における学生の育ちと課題—指導実践の振り返り(1)—. 日本保育学会第66回大会発表要旨集, 750, 2013.
- 16) 下釜綾子, 小川鮎子, 高原和子, 瀧信子, 矢野咲子: 身体表現における学生の育ちと課題—指導実践の振り返り(2)—. 日本保育学会第66回大会発表要旨集, 751, 2013.
- 17) 高原和子, 小川鮎子, 下釜綾子, 瀧信子, 矢野咲子: 身体表現活動における活動後の「ふりかえり」の有効性. 日本保育学会第66回大会発表要旨集, 752, 2013.
- 18) 高原和子, 小川鮎子, 瀧信子, 矢野咲子, 下釜綾子: 幼児の身体表現指導における指導実践後のふりかえりの有効性. 福岡女学院大学紀要人間関係学部, 15: 89-95, 2014.
- 19) 高原和子, 小川鮎子, 釜綾子, 瀧信子, 矢野咲子: 身体表現の模擬保育を考える—実践後のふりかえりの工夫と課題—. 日本保育学会第67回大会発表要旨集, 870, 2014.
- 20) 高原和子, 瀧信子, 矢野咲子: 保育内容(表現)身体表現指導における模擬保育後のふりかえりに関する一考察. 福岡女学院大学紀要人間関係学部, 17: 23-28, 2016.
- 21) 本山益子, 鈴木裕子, 西洋子, 吉川京子: 保育における身体表現—保育学会における1990年以降の研究発表より—. 日本保育学会退会研究論文集, 54, 92-93, 2001.

付記

本論文は、「シラバスからみた身体を使った表現指導の実態」として第69回日本保育学会でポスター発表したものを加筆・修正したものである。